



# 地域への愛着メソッド

地域の底力を高める  
地域への愛着を育むプログラム

●実践の手引き●



地域への愛着研究会

事務局

東北大学大学院医学系研究科 公衆衛生看護学分野

はじめに	3
<b>I. 地域への愛着とは</b>	4
1. 地域への愛着の定義	4
2. 地域への愛着の性質	4
3. 地域への愛着を構成する4つの構成概念	4
4. 地域への愛着をもつことによる効果	5
<b>II. 地域への愛着メソッド</b>	6
1. 地域への愛着メソッドのねらい	6
2. 地域への愛着メソッド	7
ステップ0. 対象地域を選定する	
ステップ1. 地域への愛着を育むための目標を設定する	
ステップ2. 地域への愛着を育むプログラムの計画を立てる	
ステップ3. 地域への愛着を育むプログラムの実施	
<b>III. 地域への愛着メソッドに取り組んでみて—行政職員の声—</b>	22
1. 地域への愛着メソッドを高める工夫	
2. 自治体における運用の方法	
<b>IV. 地域への愛着プログラムに参加してみて—参加者の声—</b>	24
文献	
付録A. 地域への愛着尺度	26
付録B. 運営日誌（記録様式とチェックリスト）	27
付録C. 参加住民の見守りポイント	28
付録D. 講義資料「地域への愛着と私たちの健康」	29

## はじめに

地域への愛着研究会では、地域への愛着を、ソーシャル・キャピタルの種を温め、芽吹きを促す苗床として着目してきました。近年、健康を高める人々の関係性や社会的な結びつきなどの社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）と生活の質との関係が注目されています。国策においても、住民のニーズの多様化・高度化に対応した地域保健対策推進の柱として、ソーシャル・キャピタルに立脚した健康づくり、健康なまちづくりの展開が盛り込まれました。しかし、ソーシャル・キャピタルは、ソーシャル・ネットワークやソーシャル・サポートをも傘下を含む大きなアンブレラ概念です。何から着手すればよいのか、自治体の健康増進部門だけでは、手に負えない重い宿題を出されたような感覚ではないでしょうか。

私たちの研究会では、10年以上前から住民間の日常的な交流を促す、ご近所づくりの研究を続けてきました。その研究成果から、住民間の日常的な交流から地域への愛着が芽生えると、生活の質が高まり維持されることがわかりました。さらに、国内外の近隣と健康の関係について調べたところ、地域への愛着がソーシャル・キャピタルと健康の関係を支持していることも確認できました。そこで、地域への愛着そのものに焦点化した研究を行い、自分が住む地域への愛着を育む方法論を考案したいと考えました。

都心へのベッドタウンとして大規模造成された地域が多くある、千葉県白井市と埼玉県吉川市と研究機関である大学との共同実践研究事業として、地域への愛着の概念分析、尺度開発、QOLとの関連検証、プログラム試案実施、介入効果の測定などを経て、この度、これまでの研究成果の総まとめとして、地域への愛着メソッドを作成することにしました。

造成当初はニュータウンであった地域も、住民が一斉に年を重ね、気づけばオールドタウンになっている現実に、「この街の10年後が心配」という声が聞こえてきます。健康増進部門と生涯学習部門や高齢福祉部門などが協力し、退職前から地域デビューを促す事業や壮年期からの介護予防事業、地域の人材発掘や人材育成事業など、多様な企画に活用していただけるように、方法論のエッセンスを取り出し、プログラム実例や、保健師・行政職・参加者の声も入れ、実践の手引として活動をイメージできるメソッドにまとめました。健康増進と地域づくりを融合させた新しい事業を考案する際の参考にいただければ幸いです。

メソッドの作成にご協力いただきました、白井市と吉川市の保健師・行政職の皆様、プログラムにご参加いただきました住民の皆様に感謝いたします。そして、地域への愛着に関心を寄せ、このメソッドを手にとっていただいた方々に感謝いたします。

研究代表者 大森 純子（東北大学大学院医学系研究科）

# 1. 地域への愛着とは

## 1. 地域への愛着の定義

日常生活圏における他者との共有経験によって形成され、社会的状況との相互作用を通じて変化する、地域に対する支持的意識であり、地域の未来を志向する心構えのことです。

## 2. 地域への愛着の性質

地域への愛着は、何かきっかけさえあれば、多くの人が抱く気持ちです。地域での生活を通して、私たちの内面に湧き起こります。この地域への愛着は、時とともに変わります。また、自分から他者、他者から自分に広がりを見せます。人は、地域への愛着をもつことで、周囲の人や自然、地域のことを大切にします。ひとりひとりのちょっとした気持ちの持ちようによって、人や地域は豊かになるのです。しかし、地域への愛着は、人間関係と結びついているために繊細であり、努力を怠ると消えてしまうかもしれないものです。

## 3. 地域への愛着を構成する4つの構成概念

地域への愛着という概念には、<人とのつながりを大切にする思い><生きるための活力の源><自分らしくいられるところ><住民であることの誇り>という4つの意味が含まれています。



図1. 地域への愛着：4つの構成概念

## 4. 地域への愛着をもつことによる効果

### 1) 個人レベル

社会貢献の実感を得ながら、活動への主体的な関与がさらに高まり、責任感や使命感などが強くなります。それらを通じて、自分の居場所や生きがいを獲得し、【日常生活の安寧と充実】や【心身の健康の保持増進】といった効果が見られます。

### 2) 個人間レベル

地域の中に仲間が増え、連帯感が高まり、良好な交流の継続などの【人間関係網の形成・維持・拡大】が見られます。

### 3) 地域レベル

近隣との共存に価値を置き、人と人との絆が生まれ、【地域の底力の創出】として、組織だった活動や人的ネットワークの形成が見られます。

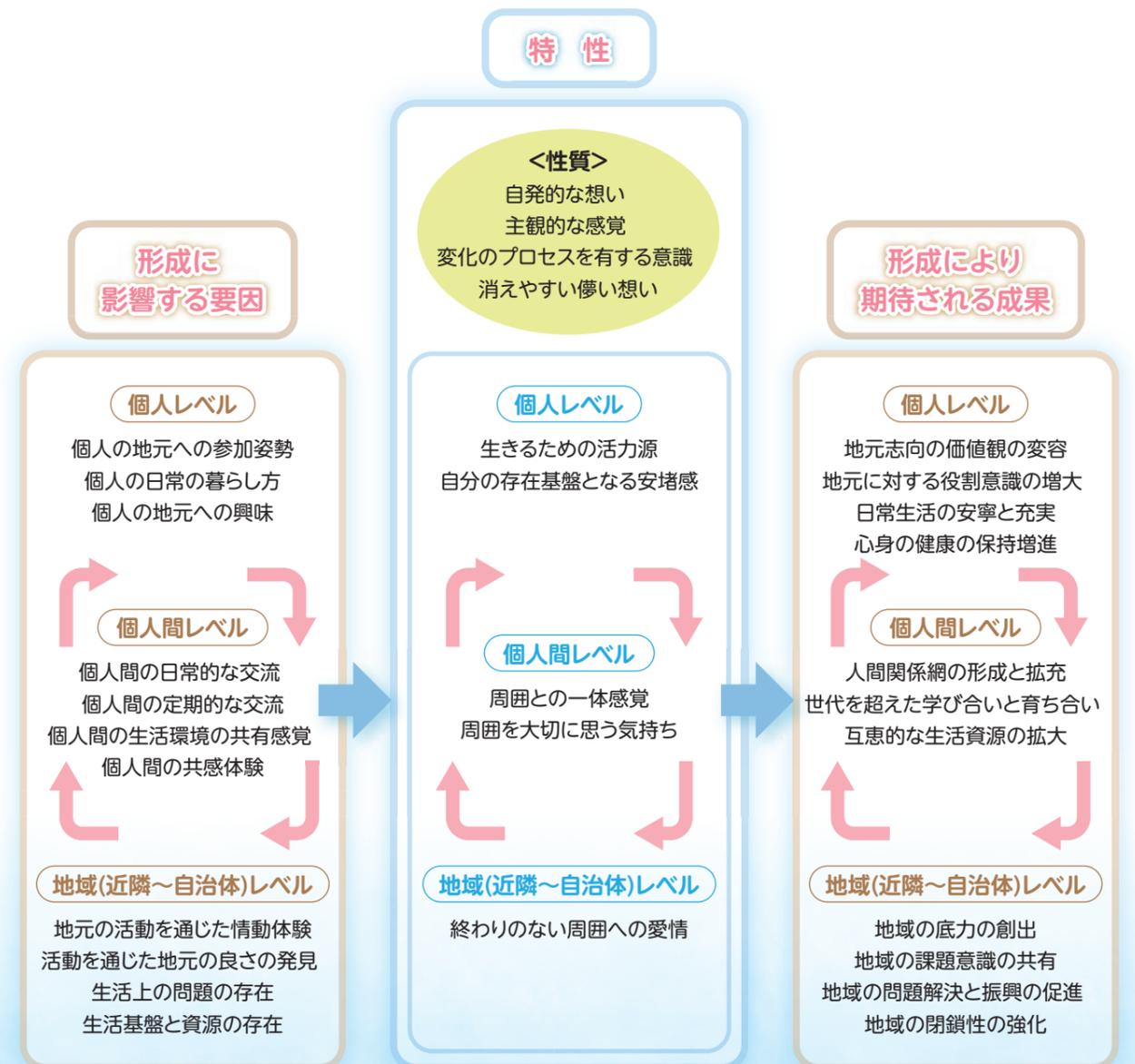


図2. 地域への愛着概念の全体構造 (大森、三森、小林、他、2014)

## II. 地域への愛着メソッド

### 1. 地域への愛着メソッドのねらい

近年、健康を高める人々の関係性や社会的な結びつきといった社会資本や社会関係資本、人間関係資本などと訳されるソーシャル・キャピタル (Social Capital 以下SC) が生活の質 (以降QOLと記す) の基盤として注目されています (内閣府, 2002; 2007)。保健政策の方向性を示す「地域保健対策検討会報告書—今後の地域保健対策のあり方」(厚生労働省, 2012) では、住民のニーズの多様化・高度化に対応した地域保健対策推進の柱として、SCに立脚した健康づくり、健康なまちづくりの展開が盛り込まれました。

SCと健康に関する知見の集積から、近隣地域への愛着が介在することにより健康行動や健康レベルに変化が起こり、その恒久性が担保されるとのモデルも示されています。(Carpiano RM, 2008)

私たちはこうした地域への愛着を、地域のSC醸成と健康増進の「苗床」として着目し、個人の認識や行動の変化 (個人変容) と地域の力量形成 (社会変容) を同時にねらう地域への愛着メソッドの作成と実践に取り組んできました。地域への愛着は、何らかの関わりで育まれるものなのです。

特に近年、都市部や新興住宅地、人口流動の大きい地域では、地域の支え合いが希薄化しているといわれています。しかしそうした地域においても、「地域で活動したい」「自分の経験や特技を活かしたい」と思っている住民はたくさんいます。この愛着メソッドは、まさに「地域入門」として参加しやすい内容で構成されており、住民を地域への愛着というキーワードでつなぐことが期待されます。

またこのメソッドは、50-60歳代を対象としているのも1つの特徴です。この世代は、仕事等が中心で、自分の住む地域に目を向けられず、地域への愛着を持っていないこともあります。しかし、定年退職によるライフスタイルの変化、およびフレイルや要介護といった高齢期の健康課題が現れる手前の「準備世代」にあたります。この時期に地域への愛着を育むことは、生活の質 (地域社会における安寧やQOL) を豊かにする観点からも意義のあることです。こうした世代が多く住む地域において、このメソッドは有効だと考えられます。

地域への愛着メソッドを活用した自治体からは、行政として、地域のキーパーソンとなる住民を発見する等、地域と行政をつなぐきっかけになったという感想もありました。もちろん、昔からのつながりを大切にしてきた地域が、地域の良さを再確認するために活用する、これからの地域づくりのために活用する等、様々な場面での活用も想定されます。

#### <引用文献>

内閣府 (2002): 平成 14 年度内閣府委託調査「ソーシャル・キャピタル: 豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」  
<http://www.npo-homepage.go.jp/data/report9.html> (2014.10.5)

内閣府 (2007): 平成 19 年版国民生活白書—つながりが築く豊かな国民生活—

厚生労働省 (2012): 地域保健対策検討会報告書

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000028uufa-att/2r98520000028uja.pdf> (2014.10.5)

Carpiano R.M. (2008): Actual or Potential Neighborhood Resources for Health, In Kawachi I., Subramanian S.V., Kim D. (eds.):

#### <参考文献>

Social Capital and Health (1st ed.), 83-93, Springer Science + Business Media LLC, New York.

大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 他 (2014): 公衆衛生看護のための地域への愛着の概念分析. 日本公衆衛生看護学会誌, 3 (1), 40-48.

酒井 太一, 大森 純子, 高橋 和子, 他 (2016): 向老期世代における地域への愛着測定尺度の開発, 日本公衆衛生雑誌, 63 (11), 664-674

高橋 和子, 大森 純子, 田口 敦子, 他 (2018): 首都圏近郊都市部の向老期世代の地域への愛着に関連する要因, 日本公衆衛生看護学会誌, 7 (2), 80-90

大森純子, 田口敦子, 小林真朝, 他 (2017): 地域への愛着を育む取組み—新たな英略的实践の開発—, 保健師ジャーナル, 73 (1), 62-67

### 2. 地域への愛着メソッド

#### 1. 地域

参加者が居住する中学校区

#### 2. 参加者

- ▶対象の選定 向老期世代、50-60歳代
- ▶人数の設定 30名程度(スタッフが全体を把握でき、参加者が全体感を持つ規模)
- ▶グループ編成 1グループ5～6(男女混合、近隣関係を配慮して割り振り)

#### 3. 会場

- ▶場所 参加者が居住する地域内、日頃から地域の住民が集い交流する施設
- ▶広さ 人数に対して大きすぎないスペース
- ▶自由に交流できるスペースを設ける(喫茶コーナー、成果物の展示など)

#### 4. 期間と回数

2ヶ月間で4回(隔週)かけて行う。1回2時間程度。プログラム終了後、交流会等を開いてもよい。

#### 5. 内容

- ▶地域への愛着と安寧との関係の理解(理解)
- ▶地域の良さを見つける地区踏査(フィールドワーク)
- ▶フォトボイスを用いて地域の良さを紹介し合う(作業と語り合い)
- ▶フォトを用いたソーシャルマップづくり(作業と語り合い)
- ▶地域の過去と未来を知る(理解)
- ▶アイスブレイクを入れる。茶話会等、自由な交流の時間をもつ。

#### 6. 運営

- ▶講師やスタッフには、地域の人的資源を活用する。
- ▶毎回、事前・事後の打ち合わせと振り返りを行なう。(付録B)
- ▶プログラム中と終了後にモニタリングを継続する。

#### 7. 留意点

- ▶対象のライフスタイルに合わせ、継続参加しやすい曜日と時間に行う。
- ▶参加者の気質や様子に合わせて話し合いや参加の姿勢などのルールを提示する。

表1. 地域の底力を高める地域への愛着を育むプログラム: 運営概要

## ステップ0

### 対象地域を選定する

行政が保有する統計データ(国勢調査、人口動態統計等)のうち、校区(中学校区あるいは小学校区)単位で集計されているデータ、そして地域を担当する保健師等の職員の意見を参考に対象地域を選定します。

特に、地域への愛着を持っていない住民が多いと考えられる地域において、メソッドの実施効果が高いと考えられます。例えば、下記の地域が想定されます。

1. 新興住宅地(居住年数の若い住民が多い地域)
2. 人口流動の大きい地域(転入・転出率の高い地域や昼間/夜間人口の差が大きい地域)
3. 50-60歳の住民が多い地域
4. 健康教室の実施が少ないなど、行政との接点が少ない地域

## ステップ1

### 地域への愛着を育むための目標を設定する

目的は参加者の地域への愛着を育むことですから、4頁の4つの構成概念を目標にします。

1. 人とのつながりを大切にすることを共有する
2. 生きるための活力の源を見出す
3. 自分らしくいられるところを見出す
4. 住民であることの誇りを共有する

## ステップ2

### 地域への愛着を育むプログラムの計画を立てる

#### 1. プログラムの実施体制

私たちは地域への愛着を、地域のSC醸成と健康増進の「苗床」として着目してきました。そのため、行政機関の中でも、保健や福祉の部署を主体に実施してきましたが、生涯教育の部署とも連携しました。地域への愛着を育むためには地域のことを知ることから始まります。地域の歴史、文化、施設、観光名所などを改めて知ることによって、地域に魅力を感じるようになります。生涯教育や社会教育を担当する部署と連携することでより充実したプログラムを行うことができます。本プログラムは「地域づくり」の方法を具体化したものです。ぜひ、「地域づくり」を必要とする部署との連携も視野に入れて体制を検討してみましょう。

## ステップ2

### 地域への愛着を育むプログラムの計画を立てる

#### 2. プログラム内容の立て方

ステップ1にある「愛着を育むための目標」の達成に向けて内容を考えます。本誌で紹介している内容は一例ですので、地域に合った方法にアレンジすることも可能です。中でも大切な目標は「人とのつながりを大切にすることを育む」です。プログラム内容の要所所で意識する必要があります。例えば、プログラムの冒頭で、アイスブレイクを取り入れて緊張感を和らげ、自分のことを話す機会をつくることで交流を促します。また、安心してお互いが話せるようなルールづくり、リラックスできる雰囲気づくりも大切です。

本プログラムは50-60歳代を対象としています。「地域デビューしてみようかな?」と考えた時に、心をつかむ魅力的な内容を考えましょう。例えば、今回は写真を題材にしました。誰でも気軽に取り組みそうな内容であることもポイントです。

#### プログラムで大事にしたこと

地域への愛着を育むための4つの構成概念を各回のテーマにする

\*常に4つの構成概念を意識するように参加者に声をかける

\*4つの概念概念に順序性を考慮し、

1. 人とのつながりを大切にすることを共有する
2. 生きるための活力の源を見出す
3. 自分らしくいられるところを見出す
4. 住民であることの誇りを共有する

の順に積み重ねていられるようにプログラムの内容を考える

参加者間(個人間、グループ内、全体)の交流を促す

\*はじめにアイスブレイクで緊張感をほぐしてからプログラムを進める

\*プログラムの進行は、個人間、グループ内、全体の3つの交流の範囲を意識して組み合わせる

\*プログラム終了後に30分程度、茶話会の時間と場を設け参加者が自由に使えるようにする

地域の活動に慣れていない方も気持ちよくプログラムに参加できるようにする

例)【プログラムを楽しむポイント】というグランドルールを作り、毎回確認する

- ①相手の意見にまず「いいね!」
- ②積極的に発言する
- ③お互いに協力し合う

## ステップ2

地域への愛着を育むプログラムの計画を立てる

## ステップ2

地域への愛着を育むプログラムの計画を立てる

### プログラムを楽しむポイント

- ①相手の意見にまず「いいね!」
- ②積極的に発言する
- ③お互いに協力し合う



### 3. 公募方法

回覧やチラシ、広報等が考えられますが、参加者が集まりにくい場合は、地域のキーパーソンになりそうな人に相談して周知するとよいでしょう。チラシでは、プログラムの内容を具体的に示し、何をするのかが分かるようにしましょう。

### 4. 評価方法

地域への愛着の変化を適切に評価することは、愛着メソッドの効果検証や、地域の課題を把握した取組みに活かすための有力なツールになります。ここでは、評価にあたってのポイントを説明します。実際には、すべての評価を実施するのは難しいかもしれません。人的資源や予算等に応じて、下記ポイントを適宜含んだ評価計画を立てましょう。

#### 1 評価の種類

##### (1) 量的評価(アンケート)

- ▶自記式アンケートによって、地域への愛着や、それによる健康や生活の変化を測定します。
- ▶アンケートは、各項目についての量的な情報を得ることができ、また、継続的に同じ項目を測定していくことによって、その変化を客観的に検証することができます。
- ▶アンケートは、プログラム参加者を対象としたものだけでなく、地域全体(市町村レベル、校区レベル等)の住民を対象としたものと組み合わせると、より効果的な評価ができます。

##### (2) 質的評価(観察・インタビュー等)

- ▶プログラム実施中や関連イベントにおける参加者の様子の観察や、インタビュー(個別インタビューやグループインタビュー)などによって評価をします。
- ▶インタビューは対面調査だけでなく、電話調査で実施することも考えられます。
- ▶質的評価では、参加者の愛着の変化が、いつ・どのようなきっかけで発生し、それが全体としてどのような経緯で発展していくか等、具体的な情報を得ることができます。

#### 2 評価のタイミング

##### (1) 量的評価(アンケート)

- ▶アンケートによる評価は、まずプログラムの「実施直前」と「実施直後」に参加者を対象として実施することで、プログラムの前後比較が可能となります。
- ▶さらに、より長期的な愛着の変化を測定するために、プログラム終了後も「1ヶ月後」「3ヶ月後」「6ヶ月後」「12ヶ月後」...と継続的に評価ができると理想的です。
- ▶プログラム参加者に加えて、プログラム実施前、および終了後の一定期間経過後に、地域全体の住民を対象とした評価を実施することで、介入前後で地域が全体としてどのように変化したかが検証できます。

##### (2) 質的評価(観察・インタビュー等)

- ▶観察は、可能な限り継続的に実施するのが理想的です。
- ▶プログラム参加者へのインタビューは、プログラムの「実施直後」に行うことが理想です。また、可能であれば、その後一定期間経過後に再度実施することも有用です。

#### 3 評価項目

##### (1) 地域への愛着

4つの構成概念である「生きるための活力の源」「人とのつながりを大切にする思い」「自分らしくいられるところ」「住民であることの誇り」を包括的に評価します。

##### (2) 地域での生活状況

地域への愛着が変化することで、日常的な交流関係やソーシャル・サポート、ソーシャル・キャピタル(信頼・規範・ネットワーク/認知的側面・構造的側面等)等、地域における生活状況にも変化があることが考えられます。これらの項目を同時に評価することで、地域への愛着の変化や、下記(3)の健康の変化との関連を検証できます。

##### (3) 健康

地域への愛着の変化が、直接的・間接的に生活習慣(運動習慣・食習慣・余暇活動等)や身体的・心理的な健康状態(身体的/精神的QOL、ADL、抑うつ度等)に影響を及ぼすことが考えられます。上記(1)(2)と同時に評価することでこれらの関連を検証できます。

**ステップ2**  
地域への愛着を育むプログラムの計画を立てる

- 4 アンケートで用いる尺度(妥当性が検証された尺度)**
- (1) 地域への愛着
    - ▶ 地域への愛着尺度(付録A)
  - (2) QOL
    - ▶ SF-36およびその短縮版のSF-8(身体的/精神的QOLのスコアを算出可能)
  - (3) ADL
    - ▶ 老研式活動能力指標(高齢者向け指標)
  - (4) 抑うつ度
    - ▶ K6(不安・抑うつ尺度)、GDS15およびその短縮版のGDS5(高齢者向け指標)

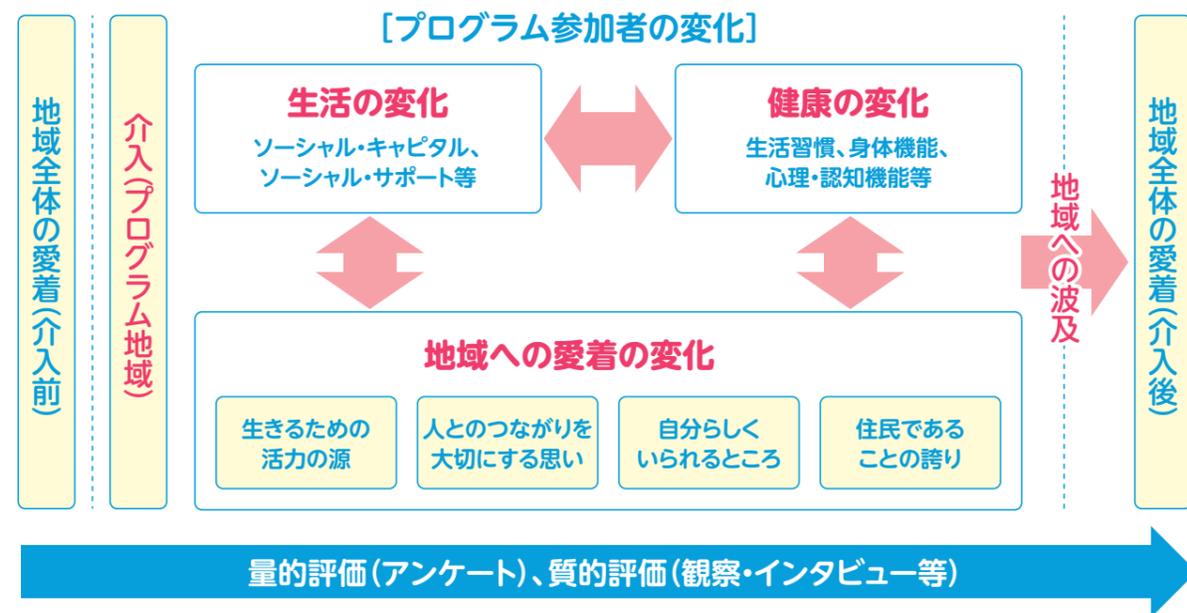


図3. 地域への愛着プログラム:実施と評価

**ステップ3**

**地域への愛着を育むプログラムの実施**

千葉県白井市桜台地区で実施したプログラムを通して、実際の方法を紹介します。白井市では、50～60歳代が参加しやすい土曜日に、桜台センターに2時間程集まって行いました(表2)。目標やキーコンセプトを取り入れながら、地域に合った方法を作り上げてください。このプログラムでは、写真(フォトボイス)の手法を取り入れていますが、交流を促進するような何か他の活動を取り入れてみてもよいでしょう。まずは、地域に合った魅力的なテーマや方法を考えましょう。

また、運営の際には、運営日誌として記録を残し、スタッフ間で次回への課題を話し合います(付録B)。グループ活動の際には、参加者やグループを見守りながら関わります(付録C)。

(表2)

回数	タイトル	目標とキーコンセプト(構成概念)とキーワード
1回目	桜台に住むわたしたち これからよろしくご近所さん	<b>目標:</b> 人とのつながりを大切にする思いを共有する  <b>キーコンセプト:</b> 人とのつながりを大切にする思い <b>キーワード:</b> 導入、交流、信頼関係の構築
2回目	わたしの桜台ほっとスポット 桜台のここが「いいね!」	<b>目標:</b> 生きるための活力の源を見出す  <b>キーコンセプト:</b> 生きるための活力の源 <b>キーワード:</b> 楽しみ、生きがい
3回目	わたしたちの桜台ほっとスポット 桜台には眠っている価値がある	<b>目標:</b> 自分らしくいられるところを見出す  <b>キーコンセプト:</b> 自分らしくいられるところ <b>キーワード:</b> 自分の居場所、安心感
4回目	桜台の未来と私の未来を語ろう ステキなまちにはつづきがある	<b>目標:</b> 住民であることの誇りを共有する  <b>キーコンセプト:</b> 住民であることの誇り <b>キーワード:</b> 自分と地域の未来

表2. 地域の愛着を育む健康増進プログラム『桜台を好きになってますます元気になろう!』

## 【1回目】

### 「桜台に住むわたしたち」これからよろしくご近所さん

**目標** 人とのつながりを大切にする思いを共有する

初対面の参加者同士がご近所さんとして知り合えるように、個人間とグループ内で行う活動を取り入れ、同じ地域に住む者同士の交流を促しました。地域への愛着に関する講話を聴いてから、次回は自分が紹介したい桜台の写真を持ち寄ろうと呼びかけました。



### ねらい

- 参加者が緊張をほぐすことができる
- 参加者同士が顔と名前を覚え、ご近所さんとして知り合う
- 参加者同士が興味をもち、積極的に交流を図ろうとする気持ちが育つ
- 参加者同士が互いの発言にポジティブにフィードバックをし合うことで交流が促され、心地よさを感じることができる
- 自由な意見交換ができる雰囲気ができる

- ① オリエンテーション
- ② アンケート
- ③ グランドルールの説明

#### アイスブレイク

- ・グループごとに氏名、住所、好きなことなど
- ・桜台の白地図に、自宅のマークを付ける

- ④ 自己紹介
- ⑤ 講義 地域への愛着と私たちの健康
- ⑥ 交流プログラム 「何の花、何の色」
- ⑦ 写真ミニレクチャー “こと”を撮るということ～上手な写真といい写真～
- ⑧ 次回案内
- ⑨ のんびりカフェ&トークタイム

### 「桜台に住むわたしたち」



わたしは、あなたは、  
何の花、何の色？

メンバーの 名前	わたし				
花					
色					

## 【2回目】

### 「わたしの桜台ほっとスポット」桜台のここが「いいね!」

#### 目標 生きるための活力の源を見出す

自分のお気に入りスポットの写真は、4つの構成概念のどれにあたるか考えながら、該当する構成概念の色の付箋でコメントを付け、桜台のここが「いいね!」をグループ内で紹介しました。次回は、さらに追加したいスポットや他と比べて写真が少なかった構成概念があれば、その写真を追加で撮ってこようと呼びかけました。



#### ねらい

- 参加者が緊張をほぐすことができる
- 参加者同士が顔と名前を覚え、グループ同士がご近所さんとして親しみを感じる
- 参加者同士が興味をもち、積極的に交流を図ろうとする気持ちが育つ
- 参加者同士が互いの発言にポジティブにフィードバックし合うことで交流が促され、心地よさを感じる
- 自分の住む地域について、自由な意見交換ができることが楽しくなる
- 桜台に自分の「生きるための活力の源」があることに気づくことができる

#### アイスブレイク

声を出さずに、ジェスチャーなどでコミュニケーションをとりながら、居住年数順に並ぶ

- ① オリエンテーション
- ② グループワーク「これが私のお気に入り」
- ③ 今日の振り返り・次回案内
- ④ のんびりカフェ&トークタイム

#### わたしの桜台 ほっとスポット



#### 健康増進プログラム グループワーク用紙①

グループ 月 日 ( )

##### 1. どんな写真が多かったですか？

ひととのつながりを大切にする思い	枚
自分らしくいられるところ	枚
生きるための活力の源	枚
住民であることの誇り	枚

##### 2. 次回持ち寄りしたい写真はありますか

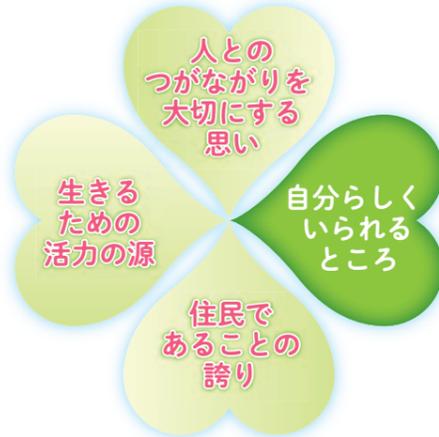
##### 3. 桜台マップのタイトル

### [3回目]

「わたしたちの桜台ほっとスポット」 桜台には眠っている価値がある

#### 目標 自分らしくいられるところを見出す

グループ内で、自分が桜台でほっとできる場所や安心できる場所もスポットとして認識し、美しい景観だけでなく、そこに住む人たちにも関心を寄せる写真も取り上げ、紹介しました。白地図にコメント入りの写真を貼り、グループ内の交流が全体の交流に広がるよう、桜台の魅力を紹介する発表会を行いました。



#### ねらい

- 「生きるための活力の源」、「自分らしくいられるところ」を参加者が、意識することができる
- 参加者が他の参加者の思いを聞くことで、参加者（個人）が参加者全体（集団）へと関心を広げることができる
- 他の参加者の話を聞きながら、別の価値観や新たな地域の魅力に気づくことができる
- 作業を通じて、参加者同士が連帯感を持つことができる

**アイスブレイク**  
桜台にまつわるクイズ  
グループごとに考える

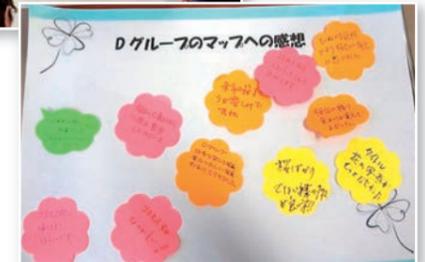
- ① オリエンテーション
- ② グループワーク 「桜台の素敵マップを作ろう」
- ③ 成果発表
- ④ 次回案内
- ⑤ のんびりカフェ&トークタイム



桜台の  
素敵マップを  
作ろう



#### 成果発表会



#### 健康増進プログラム グループワーク用紙②

グループ 月 日 ( )

1. ご自身にとって「生きるための活力の源」は何だと思えますか

2. ご自身にとって「自分らしくいられるところ」はどこだと思えますか

**【4回目】**  
**「桜台の未来と私の未来を語ろう」**  
 ステキなまちにはつづきがある

**目標** 住民であることの誇りを共有する

前回までに参加者が興味をもった土地の歴史と公園などにある龍にまつわるシンボルの意味や、地域の将来的な人口構造の変化や高齢社会の到来に関する白井市の資料やデータを用いて桜台の過去を振り返り、自分と地域の未来を考えるきっかけとなる話題を提供しました。



夢を語り  
合いましょう



**ねらい**

- 参加者が参加者全体から地域へ、現在から未来へと関心の幅を広げることができる
- 参加者同士が作業を通して、地域への愛着を深めると同時に、自分の大切にしているものを再認識することができる
- 参加者が将来への夢を描き、そのために取り組むべきことを整理することができる
- 参加者が他の参加者に話すことで考えを整理し、前向きな気持ちをもつことができる
- 参加者同士が自主的につながりをもち続けることができる
- 「今後も集まれるように参加者名簿が欲しい」「みんなで何か取り組みたい」という声が出るのが想定されるため、どう対応するかをスタッフ間で話し合っておく
- 参加者が集まりたくなった時には相談にのれることを伝えておく

- ① オリエンテーション
- ② 前回までの振り返りから「10年後のわたし、明日からのわたし」
- ③ グループトーク「夢を語り合いましょう」
- ④ アンケート、グループインタビュー
- ⑤ のんびりカフェ&トークタイム

**アイスブレイク**  
 “コミュニケーションゲーム”  
 アクティブ・リスニングで聞き上手になる



### III. 地域への愛着メソッドに取り組んでみて—行政職員の声—

#### 1. 地域への愛着メソッドを高める工夫

●白井市 保健師 三笠 幸恵 様

##### 「取り組もうと思った理由」

プログラムの実施地区は、人口5,790人（平成26年当時）で、そのほとんどが千葉ニュータウン造成と共に入居した地域でした。高齢化率13%とまだ若い地区ですが、当初、子育て期だった方も子供が巣立ち、定年退職した方も少しずつ増え、地区住民からは「高齢化しているよ」という声が聞こえてくるようになりました。また、都内通勤だった方も多く「隣近所が分からない」「地域をよく知らない」という方が目立つ地域でもありました。

実施地区を決定する際には、このようなニュータウンの地区特性と、プログラムのエビデンスを明確に示せることが、この地域の学習意欲の高さに合っていると考えたからです。

プログラム実施後の経過に関わる中で参加の効果として感じていることは、市（職員）と顔の見える関係ができ、市の事業への参加協力や、その他の地域活動、ボランティア活動に参加するきっかけとなったことが挙げられます。

また、地域への愛着をテーマとした事業開催は、従来のような疾病予防をテーマとし、保健師が伝える・教えるという手法での事業展開ではなく、参加者同士が伝え合う形となり、終了後も参加者同士も市職員ともフラットな関係性が築くことにつながったと感じています。

##### 「実施後を見て感じた効果」

地域デビューや市・地域団体との連携の入り口になった。疾病をテーマにしないことで、（教える）してあげる→（教わる）してもらうという一方的な関係ではなく、スタッフは機会を提供し、参加者同士で伝え合うフラットな関係性を築くことにつながった。

●白井市 保健師 矢野しのぶ 様

##### 「地域への愛着を高める工夫」

プログラム実践にあたっては、参加者同士がお住いの地域について語り合うことで、相互作用により、地域への愛着をより深められるよう、全体を通じて、参加者間のコミュニケーションが活発に行われよう心がけました。そのための工夫として、地域の魅力を伝えるフォトマップ制作のグループワークと平行しながら、テーマを設けた対話の機会をできるだけ多く提供しました。

そして、テーマの設定では、ふたつのことを特に意識しました。ひとつめは、自身の想いと地域への愛着の4つの構成概念との関連を認識してもらえようような投げかけをすること。ふたつめは、対話を重ねるごとに参加者の関心が個人や家族単位から地域単位に、また現在から未来へと広がっていくように流れをつくることです。

例えば、講座の第2回目に地域への愛着の4つの構成概念を活用したグループワークを行いました。各自持ち寄った写真について、どのような思い入れがあるのか説明し、4つの構成要素に分類した後、枚数を数え、その意味を解釈して、グループ内で話し合うというものです。すると、「ベランダから見える景色」や「昔を思い出す公園」は、「自分らしくいられるところ」であるとか、「心地よく安心して歩ける遊歩道」は「生きるための活力の源」になっており、「緑と桜の美しい風景」に「住民であることの誇りを感じる」など、それぞれの写真についての様々な想いが語られました。さらに、あるグループでは、持ち寄られた枚数の少なかった「ひとつのつながりを大切にしたい」という思いを表す写真として、次回はお祭りの時の写真や子どもたちが遊んでいる写真を持ち寄ろうというアイデアが生まれました。4つの構成概念ひとつひとつに思いを巡らせ、対話をすることで、形を持たない「愛着」という感覚が言葉として表現され、それが現在の自分にどのような影響を与えているのか認識されるだけでなく、自発的に表現されなくとも内在している想いに多くの参加者が気づく結果となりました。

最終回の「10年後のわたしと明日からのわたし」

をテーマにした話し合いでは、「寝に帰るだけの生活がほとんどだったが、これからはもっと地域に密着したい。10年後は地域に役立っていたい。」「これからの5年間で近隣の友人をもっとたくさん作りたい。」「地域の一員としてできる範囲でボランティア活動をしていきたい。」などの声が聞かれ、介入により、近隣とのつながりや地域貢献への意識にも変化があったと感じることができました。

そして、このような変化は、支援者として関わった私たち市職員にも生じました。桜台という地域やそこに住む皆さんとの結びつきをこれまで以上に感じられるようになり、語られた夢が実現できる未来を一緒につくっていきたいという気持ちが自然と湧き上がっていました。それは今もこの地域で保健活動を展開する原動力になっています。

#### 2. 自治体における運用の方法

●吉川市 事務職 小林 以津己 様

現在、吉川市は平均年齢が40歳代と比較的若い市ですが、今後急速に高齢化が進行すると予想され、高齢化に伴い発生する様々な課題は他人ごとではありません。特に就労している方が退職した後、どのように地域で人とのつながりを持ち、生きがいを持って暮らしていくかは、生活の質を維持するためにも重要なポイントだと思います。

今回のプログラムは、参加者相互の交流を促進するとともに地域への愛着を深める手法になりえるのではないかと考え、開催に至りました。プログラムにおいて効果的と感じた点は、「写真」をツールとして活用したこと。多くの方に馴染みがあり、感動や新たな発見を得られる写真はグループワークに最適だと感じました。

また、運営に当たって特に注意をした点は「雰囲気づくり」です。開放感のある会場を用意し低音量でBGMを流すなど寛げる環境を用意したことは、参加者が早期に打ち解けるために役立ったと思います。

結果として、はじめこそ会話がぎこちなかった

参加者も回を重ねるごとに互いに打ち解けて多くの笑顔も見ることができ、最終回終了後に「またみんなで集まりたい。」との声もいただきました。

「地域課題の解決」は、大きな難題ですが、このプログラムをきっかけとし、多くの方が地域への愛着と交流を深め、豊かな人生を実現されることを望んでいます。

●吉川市 事務職 木村 みのり 様

本プログラムを通じ、参加者の多くが「自分の住んでいるところはなんとなく好き」といった地域に好意的な感情をもっていることがわかりました。この漠然と持っている「自分の住んでいるところが好き」という気持ちをこのプログラムは4つの目標にもとづき、増長させてくれるものと感じます。

プログラムの中心となるアルバム作成については、写真を通じて、改めて自分の地域を振り返ることで、新たな発見や再確認をすることができ、そして、それを同じ地域の方々と共に共有し、その過程で会話が生まれ、心地よさを感じることができ。こうしたことから、プラスの感情が残り、今後の活動につながっていくきっかけになっていくことがわかります。

市の職員として、本事業にかかわるうえで、大切にしたいことは、場の雰囲気作りです。なるべく同じ職員がかかわることで、参加者は安心感を持って参加でき、また、ほかの参加者から否定されることがないという約束の下で場を運営することで、すべての参加者が自己肯定感や達成感を得ることができると感じました。

初回は、緊張感をもって参加した方も回を重ねることで、少しずつ期待へかわり、最後は、終了を惜しむような感想を持つ方々もたくさんいらっしゃいました。その後、本プログラムの結果、参加者が地域の中で新しい活動を始めるということにつながったかという検証はしていませんが、地域や市へ愛着を持ち、様々な事業に関心を持ってかかわっていただけないかという印象を受けています。

## IV. 地域への愛着プログラムに参加してみてもー参加者の声ー

### ●白井市 周藤 好次 様

#### 「プログラム終了後の地域での活動」

プログラム終了後、多くの人との出会いが出来る地域への密着活動はないかと考えて居りました。半年後に市の広報誌に、「介護予防推進員」募集とあり応募致しました。

四日間の講座を受講し、市長より二年間の委任状を受け取り、市内の各地で高齢者に対して、市のご当地体操「梨トレ体操」普及、筋力トレーニング教室の立ち上げ、体力測定、認知症予防イベントなどの市の取り組みに協力でき、任期終了後も地域のために、活動を引き続きやっていけると思いました。

介護予防推進員は男性八名、女性八名の十六人市内各地の集会所等で梨トレ体操及び「白井楽トレ体操」筋力運動を推進員二人又は三人で指導、推進してまいりました。二年間で二十ヶ所の教室を立ち上げ現在も活動中です。市の職員、介護予防推進員十六人も非常にチームワーク良く、積極的に良き仲間であったと思います。推進員中に桜台地区でも早く立ち上げたいと思い、地区福祉協議会と連携し場所の提供を受け、平成三十年五月より開催する事が出来ました。現在十五人から二十人位の高齢者の方達が集まり、週に一回運動を

して居ります。参加者達はお茶を飲みながら、近況報告したり脳トレしたり憩いの場になっています。

私はその他に「スポーツ吹き矢サークル」を介護予防推進員始めた後に立ち上げました。正式な吹き矢の道具は高価な為、筒はアルミパイプ、矢は豆腐、納豆の包装紙で矢を作り、的も手作りです。但し的の点数紙は正式な物を購入して居ります。現在は十四名で月に二回開催して、腹筋運動に良く集中力を高めます。吹き矢サークルも三年になりますが、いろいろな出会いがあり長く続きそうです。

### ●吉川市 横井 節子 様

#### 「地域への愛着プログラムに参加して」

当初は、郵送されてきました書面の“あなたのまちの素敵な写真集を皆で作りませんか?”というタイトルに惹かれて軽い気持ちで参加しました。ところが「どのように地域への愛着づくりを推進するか」という研究目的で地域への愛着を育むプログラムとしてその定義や概念、効果等を4回にわたりしっかり学ぶこととなりました。そして、その中で初めて知り合ったご近所さんから、知らなかった吉川の名所や地域活動等を教えてもらいながら、

グループ共同作業で素晴らしい写真集を作成することができました。吉川に引っ越して13年になりますが夫婦とも日々の仕事に追われながら、狭い範囲での地域の交流はあっても、このように広く他の地域の方々と関わる機会はなかなかありません。また、このプログラムがきっかけで吉川市役所様からご依頼をうけ、私の歯科衛生士としての夢でもありました地域の皆様への口腔教室を行わせていただくこともできました。さらに一步外へでると、幸せなことに新たな地域への愛着にも繋がっていきますね。人は誰もが齢を重ねいろんな問題に直面しますが「自分なりの元気でいい」個人レベル、ご近所レベル、お互い様レベル」大森先生の講義でのお言葉を忘れずに、大好きな地域と優しいご近所さんのために、今の私が役に立てることを無理なく楽しく実践していきたいと思えます。関係者の皆様にも感謝いたします。「吉川を好きになってますます“健口”になろう」

### ●吉川市 小野 泰子 様

昨年の六月に「吉川を好きになって、ますます健康になろう!」に参加したのは、二十年以上前に越して来たこの場所を、終の住処にしたい、この地域で

知人を増やしたいと思ったからです。私と一緒にならと、主人も参加すると言ひ二人で参加しました。

東北大学と吉川市役所の職員の方が、この会を盛り上げて下さいました。初めに一月一日から生年月日順に全員が並び、自己紹介しました。学生時代を思い起こさせるように楽しく、他の参加者も自然と笑顔になっていました。

気難しいと思っていた近所の男性が児童館で手品を披露していると知り、話してみると楽しい方でした。それだけでも参加して良かったと思えました。また、グループ毎に街の写真の編集をしていきました。主人と吉川市内を車で走り回り写真を何枚も撮り、改めて自然の美しい街だと知りました。

優しい住民、自然の豊かな街、ますます、この地域が好きになっています。吉川市では四月末に吉川市の在住者を中心とした音楽家達の演奏と書道や日本画などが会場に展示するアーティストフェスが催されました。そこに、昨年は音大卒の娘と二人で、今年是一人でピアノ演奏者として参加しました。これからも音楽を通して参加をしたいですが、将来この地域を支えてくれる子供達の預かりや送迎のボランティアにも参加したいと思っています。



付録A. 地域への愛着尺度（酒井、大森、高橋、他、2016）

あなたは、現在のお住まいの地域について、どのような思いを持っていますか。

以下の項目すべてについて 1つだけ○をつけてください。	そ う 思 う	や や そ う 思 う	思 あ ま り な い	そ う 思 わ な い
地域のために活動することは自分の楽しみである	4	3	2	1
地域の活動に参加すると元気になれる	4	3	2	1
地域の人と交流すると元気になれる	4	3	2	1
地域の人との交流は生きていく上でのエネルギーになる	4	3	2	1
地域の中に自分の生きがいがある	4	3	2	1
地域に世間話をする人がいる	4	3	2	1
地域に挨拶できる人がいる	4	3	2	1
地域の人との付き合いを大事にしている	4	3	2	1
地域の一員として周囲の人たちに受け入れてもらっている	4	3	2	1
同じ地域に住む人を大切に思う	4	3	2	1
同じ地域に住む人の存在のありがたさを感じる	4	3	2	1
地域に住んでいる人たちのことがわかる	4	3	2	1
地域の行事・祭事等を大切にしている	4	3	2	1
この地域は落ち着ける場所である	4	3	2	1
この地域は居心地が良い	4	3	2	1
この地域は自分にとって大切な場所である	4	3	2	1
この地域には自分の生活の基盤がある	4	3	2	1
この地域には大切な思い出がある	4	3	2	1
地域のことをもっと良くしたいと思う	4	3	2	1
この地域の良さを守っていききたいと思う	4	3	2	1
地域のために頑張っていきたいと思う	4	3	2	1
同じ地域に住む人どうしのきずなは大切である	4	3	2	1
この地域の住民であることに誇りを感じる	4	3	2	1

注) 合計を地域への愛着得点とする。第Ⅰ因子「生きるための活力の源」(項目1~5)、第Ⅱ因子「人とのつながりを大切にしたい」と(項目6~13)、第Ⅲ因子「自分らしくいられるところ」(項目14~18)、第Ⅳ因子「住民であることの誇り」(項目19~23)。

付録B. 運営日誌（記録様式とチェックリスト）

第 回 テーマ：																											
目 標																											
日 時	年 月 日 曜日 : ~ : 天気																										
会 場																											
スタッフ																											
参加者 ( ) 名	配置・座席																										
欠席者・遅刻者 ( ) 名																											
グループの様子	グループの状態チェックリスト <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">○ △ ×</td> </tr> <tr> <td>1) 目標を達成したか</td> <td style="text-align: right;">1) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>2) グループワーク等はスムーズであったか</td> <td style="text-align: right;">2) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>3) 意欲的であったか</td> <td style="text-align: right;">3) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>4) 明るく温かい雰囲気であったか</td> <td style="text-align: right;">4) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>5) まとまっていたか</td> <td style="text-align: right;">5) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>6) 全員がグループワーク等に参加していたか</td> <td style="text-align: right;">6) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>7) メンバー相互で方針決定を行っていたか</td> <td style="text-align: right;">7) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>8) グループが自律していたか</td> <td style="text-align: right;">8) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>9) 皆が満足していたか</td> <td style="text-align: right;">9) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>10) 変更や改善に積極的であったか</td> <td style="text-align: right;">10) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>11) 声掛けが必要そうな人はいなかったか</td> <td style="text-align: right;">いる <input type="checkbox"/> ・ いない <input type="checkbox"/></td> </tr> </table> <table border="0" style="width: 100%; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="width: 80%;">                     ✓ 会話や作業に入りこめていない                      ✓ 表情が暗い                      ✓ 緊張感が高い                 </td> <td style="width: 20%; vertical-align: middle;">                     ( 該当者: )                 </td> </tr> </table>		○ △ ×	1) 目標を達成したか	1) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	2) グループワーク等はスムーズであったか	2) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	3) 意欲的であったか	3) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	4) 明るく温かい雰囲気であったか	4) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	5) まとまっていたか	5) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	6) 全員がグループワーク等に参加していたか	6) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	7) メンバー相互で方針決定を行っていたか	7) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	8) グループが自律していたか	8) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	9) 皆が満足していたか	9) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	10) 変更や改善に積極的であったか	10) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	11) 声掛けが必要そうな人はいなかったか	いる <input type="checkbox"/> ・ いない <input type="checkbox"/>	✓ 会話や作業に入りこめていない ✓ 表情が暗い ✓ 緊張感が高い	( 該当者: )
	○ △ ×																										
1) 目標を達成したか	1) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
2) グループワーク等はスムーズであったか	2) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
3) 意欲的であったか	3) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
4) 明るく温かい雰囲気であったか	4) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
5) まとまっていたか	5) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
6) 全員がグループワーク等に参加していたか	6) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
7) メンバー相互で方針決定を行っていたか	7) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
8) グループが自律していたか	8) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
9) 皆が満足していたか	9) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
10) 変更や改善に積極的であったか	10) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																										
11) 声掛けが必要そうな人はいなかったか	いる <input type="checkbox"/> ・ いない <input type="checkbox"/>																										
✓ 会話や作業に入りこめていない ✓ 表情が暗い ✓ 緊張感が高い	( 該当者: )																										
全体的な評価																											
次回への課題																											
次回の予定																											

付録C. 参加住民の見守りポイント

見守りポイント	見守るための観察項目の例
1. 全体の雰囲気	楽しい雰囲気 (笑顔が多い、笑い声が多い等) 暖かい雰囲気、落ち着いた雰囲気 自己開示の幅の広がり (挨拶・世間話、感想を話す、思いを伝える、悩みの相談等)
2. 参加者の交流の変化	プログラム前後の参加者同士の交流が増える 日常生活での近所付き合いの変化 交流状況の変化 (日常の交流が増える、お互い同士を気遣い合う、相互の予定を知っている等)
3. コミットメントの様子 参加している様子	プログラムへの出席や意欲等の変化 (宿題を行って参加する、 写真を撮ってきた、調べてきて発言する等) 内容への興味関心、反応の変化 (話に出た場所や興味が湧いて実 際に行ってきた等) 主体的な行動が見られる等
4. 地域への関心の変化	地域の新しい発見に心が動く。(場所・歴史・課題等) もっと地域のことを知りたいと感じる。 地域活動への関心が高まる。(地域に関する発言が増える) 地域活動への参加を希望する。(公民館活動、ボランティア活動、 地域貢献等への関心)
5. 参加者の関心事	参加者が関心を持つ話題、内容を把握する 反応がよかった話題、雰囲気を盛り上げた内容



付録D. 講義資料「地域への愛着と私たちの健康」

2018年6月14日講義資料

## 地域への愛着と私たちの健康

1

## 地域への愛着とは

地域への愛着とは「日常生活圏における他者との共有経験によって形成され、社会的状況との相互作用を通じて変化する、地域に対する支持的意識であり、地域の未来を志向する心構え」です。

2

## 地域への愛着の4つの構成概念

3

## 人とのつながりを大切にしたい

地域の人たちとの交流を通して暮らしの営みを分かち合っていることにありがたさを感じ、この地域の一員として周囲の人たちとのつながりを大切に思う気持ち

## 自分らしくいられるところ

この地域には自分の原点や大切な思い出があり、ここに自分の居場所を見出し、安らぎや安堵感を得ることができているという安寧的な感覚

## 生きるための活力の源

この地域での暮らしの営みに楽しく専心することができ、そこから生きていくための活力源を得ることができているという開達的な感覚

## 付録D. 講義資料「地域への愛着と私たちの健康」

### 住民であることの誇り

この地域の住民であることに誇りを感じ、  
この地域の人たちと共に自分たちの地域の良さを守り、  
より良くしていきたいという願いやかかわろうとする気持ち



### 先行要因（影響する要因）

- 個人** 地元への参加姿勢、日常の暮らし方  
地元への興味
- 個人間** 日常的な交流、定期的な交流  
生活環境の共有感覚、共感体験
- 地域** 活動を通じた情動体験、活動を通じた発見と分析  
生活上の問題の存在、生活基盤と資源の存在

### 帰結（期待できる成果）

- 個人** 価値観・姿勢の変容、役割意識の定着・増大  
日常生活の安寧と充実、心身の健康の保持増進
- 個人間** 人間関係網の形成・維持・拡大  
世代を超えた学び合い・育ち合い  
互恵的な生活資源の拡大
- 地域** 地域の底力の創出、地域の課題意識の共有  
地域の問題解決と振興の促進  
地域の閉鎖性の強化



### 地域への愛着メソッド

地域の底力を高める地域への愛着を育むプログラム -実践の手引き-

発行：地域への愛着研究会

デザイン・印刷・製本：株式会社 山川印刷所

2019年9月15日（初版第1刷）発行

※本書の内容の無断掲載、複製・複写等を禁じます。  
※本プログラム実施の際には、ご一報頂いた上で、プログラム、アンケートや記録様式をご活用下さい。

平成 27-30 年度文部科学省科学研究費助成事業基盤研究（B）（課題番号 15H05101）  
地域の底力を高める「地域への愛着メソッド」の汎用性開発

#### 主任研究者

大森 純子（東北大学大学院）  
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1  
Tel: 022(717)7931 Fax: 022(717)7931 E-mail: junko-omori@med.tohoku.ac.jp

#### 共同研究者

田口 敦子（東北大学大学院）	宮崎 紀枝（長野県立大学）
三森 寧子（聖路加国際大学）	齋藤 美華（山形県立保健医療大学）
小林 真朝（聖路加国際大学）	今村 晴彦（東邦大学）
小野 若菜子（聖路加国際大学）	森田 誠子（聖路加国際大学）
安齋 ひとみ（目白大学）	中野 久美子（東北大学大学院博士後期課程）
酒井 太一（順天堂大学）	

#### 共同自治体

千葉県白井市 埼玉県吉川市



# 地域への愛着研究会

事務局

東北大学大学院医学系研究科 公衆衛生看護学分野